

### 3 点検のポイント

#### (1) 堤体

##### ① 変形していませんか？

堤体の内のり面が浸食【写真①参照】されていたり、亀裂・陥没・崩落【写真②参照】しているところはありませんか。点検は、貯水開始時、満水時、秋の落水時など、貯水位を上げる時・満水位の時、下げる時に行いましょう。



【写真① 堤体内のり面の浸食】



【写真② 堤体外のり面の崩落】

##### ② 漏水はありませんか？

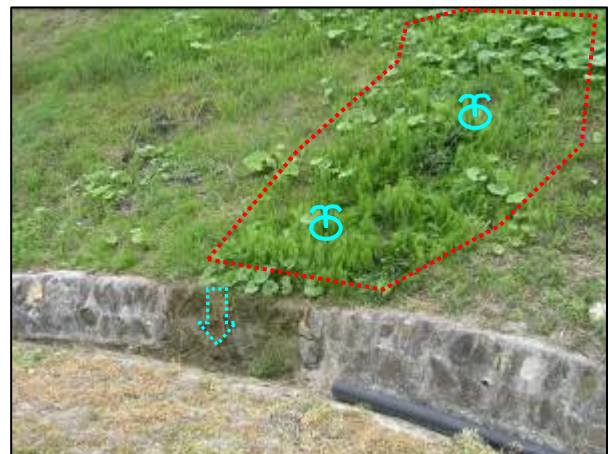
のり面・腰石積・地山との境などから水がしみ出していたり【写真③参照】、歩くと湿って柔らかくなっているところはありませんか。小さな水みちが決壊のもとになります。特に、こうした箇所には、湿地を好む植物が繁茂するなど植生の変化【写真④参照】が見られます。

毎年行う草刈り時に注意して点検するとともに、このような現象を発見した場合は、速やかに市町役場に連絡しましょう。

また、貯水位を急に上げたり下げたりすると、割れ目からの浸透水で堤体が破壊したり、のり面が崩落したりすることがあります。このため、長時間落水した後、一気に満水位まで貯めないよう、漏水などを確認しながら徐々に水位を上げるようにしましょう。



【写真③ 堤体のり尻からの漏水状況】



【写真④ 漏水に伴う堤体のり面の植生変化】



## (2) 洪水吐

### ① 土のうなどで堰上げしていませんか？

洪水吐に土のうを積んだり、堰板などで堰上げ【写真⑤⑥参照】していませんか。満水位以上に水位を上げると、漏水を助長するばかりでなく、洪水時には土のう等に流木が引っかけたて洪水吐を塞ぐこともあります。ため池は土で出来ているため、水が堤防を越えると決壊する危険性が高いので、早急に撤去しましょう。



【写真⑤ 土のうによる洪水吐の堰上げ】



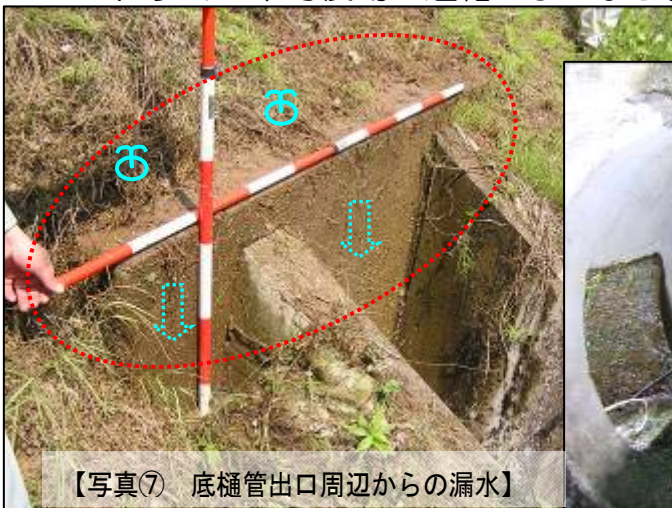
【写真⑥ 堰板と土のうによる洪水吐の堰上げ】

## (3) 取水施設

### ① 底樋周辺から漏水はありませんか？

底樋管出口周辺からの漏水【写真⑦参照】はありませんか。ため池の決壊は底樋管周りで多く発生しております。出口周辺だけでなく、樋管内部の亀裂や漏水【写真⑧参照】にも注意して入念に点検しましょう。

特に、漏水量が増えてきたり、堤体外のり面の高い位置に漏水が見られたり、土が混ざったような濁った水が漏れていたら危険な場合が多いので、すぐに市町役場に連絡しましょう。



【写真⑦ 底樋管出口周辺からの漏水】



【写真⑧ 底樋管内部からの漏水】